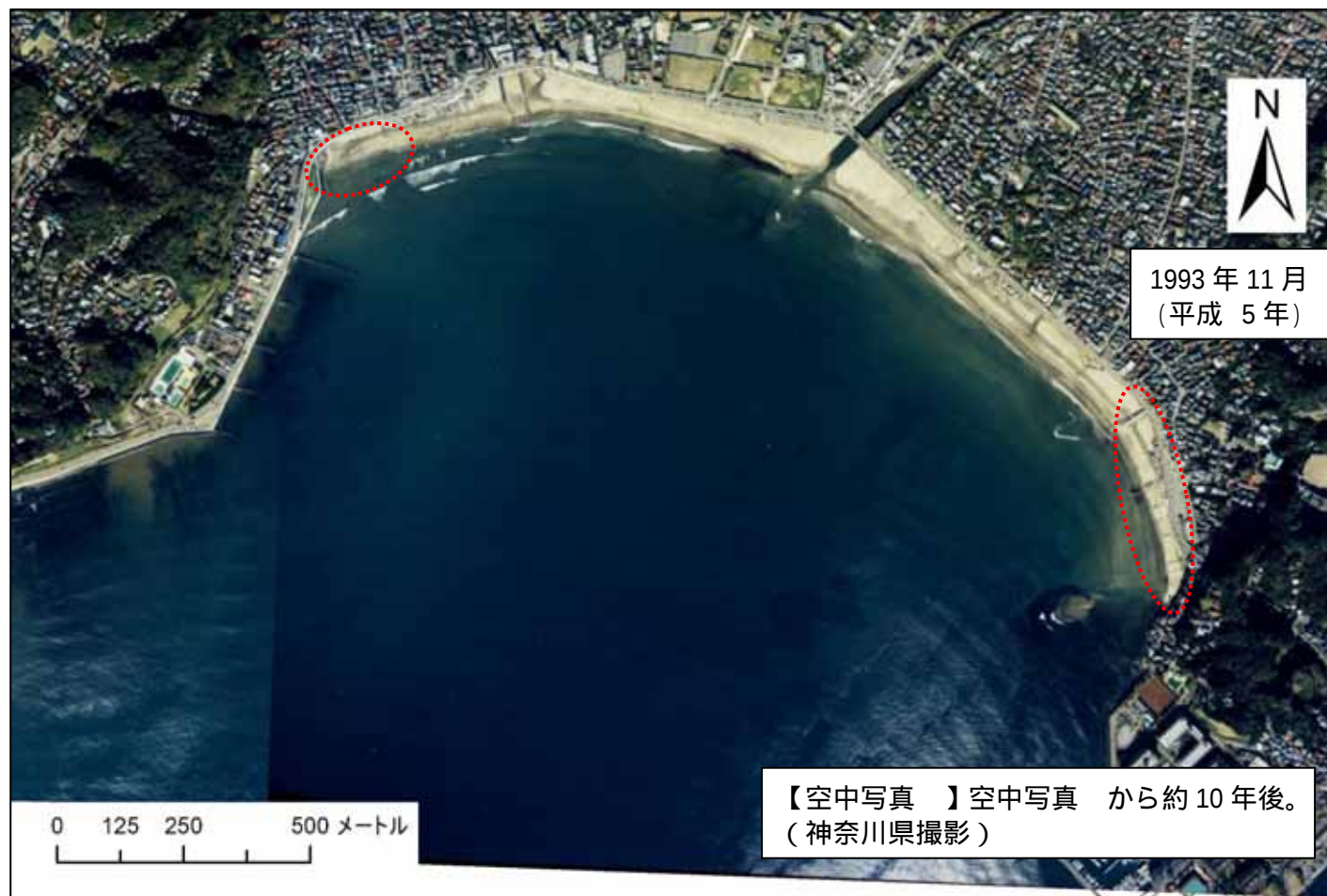
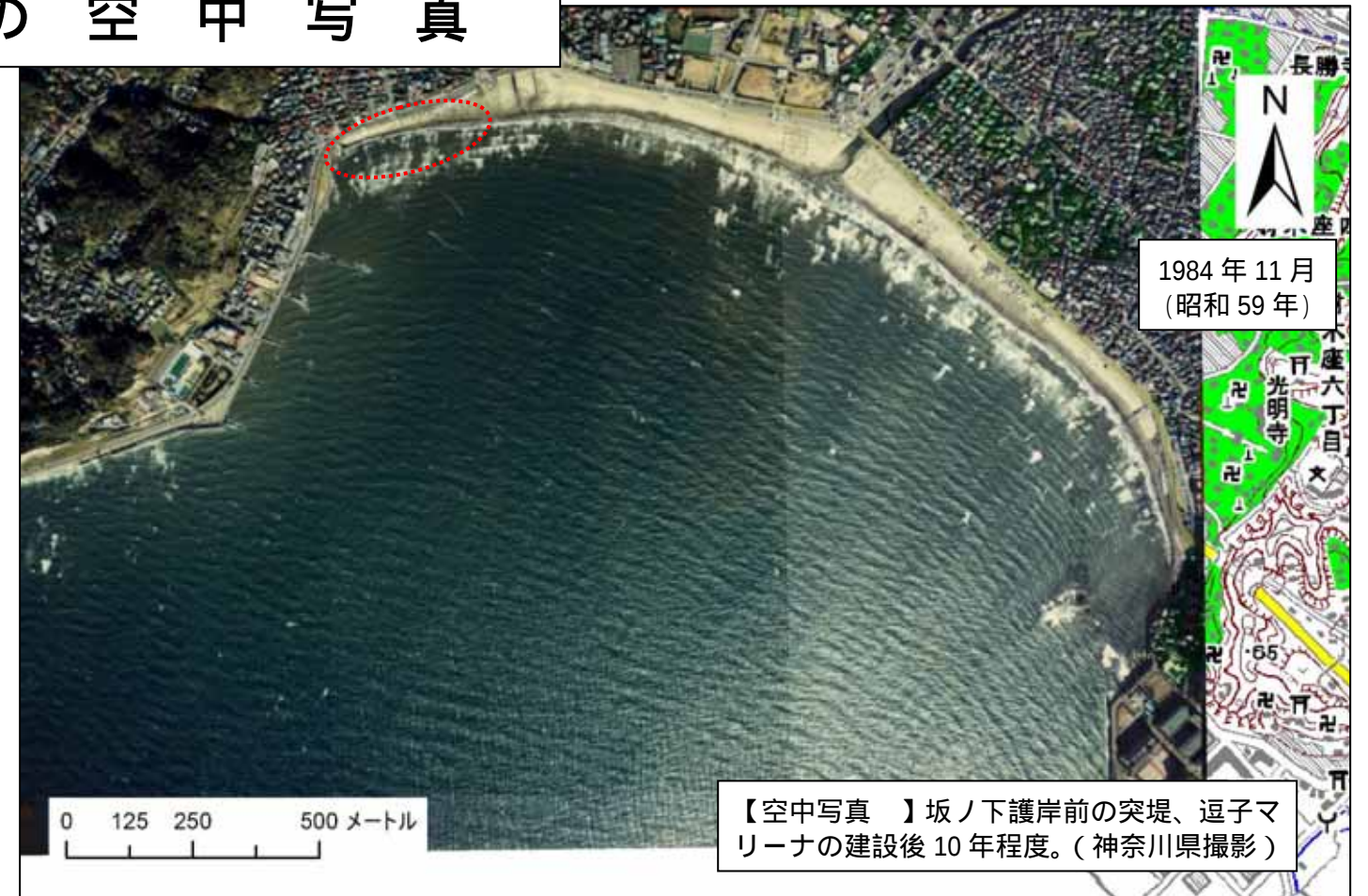


鎌倉海岸の空中写真



いずれの空中写真も潮位高さの差異が少ないものを選定している。

【空中写真の選定理由】

- 2007 年 4 月は、国土地理院撮影の最新の空中写真である。
- 1967 年 5 月は、坂ノ下護岸前面の突堤や逗子マリーナが建設される前で、最新の空中写真が撮影された潮位レベルに近いものを選定している。
- この 2 枚の空中写真の撮影期間内で、波が比較的低くて、潮位レベルに近い 2 枚の写真を選定している。

【海浜変形への影響境界点】

- 坂ノ下護岸の突堤 5 基の建設前後で、由比ヶ浜の形状は大きく変化していない。
→ 突堤の天端高が低く、海浜変形に影響する程度の波浪が乗り越えることが想定され、海浜変形への影響が少ないと判断される。
- ごく僅かであるものの、長期的な海浜形状が見られるのは、由比ヶ浜の西側であり、その範囲は概ね坂ノ下護岸南端付近から北向きに見て 45° 東までの範囲内にある。
→ 海浜変形に対して支配的な波向きは、この範囲から主方向 S と仮定できる。

【海浜全体】

- 逗子マリーナの建設後の影響は比較的軽微と推定される。
- しかし、ごく最近十数年では、由比ヶ浜全体で汀線の後退が見られる。
- 顕著なのは、東側である。
- 海浜形状には大きな変化がないことから、東西（沿岸）方向の移動ではなく、南北（岸沖）方向の移動、または砂の供給不足による後浜（海浜の傾斜を上がった陸上部分）が縮小していることが海浜変形の原因であると推測される。
→ この現象は、神奈川県による深浅測量結果（資料整理中）からも推察できる。

以 上